

氏名	佐伯 勇輔
授与した学位	博士
専攻分野の名称	保健学
学位授与番号	博甲第6431号
学位授与の日付	令和3年3月25日
学位授与の要件	保健学研究科 保健学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文の題目	Comparison of the Hybrid Capture II Method with a PCR-Based Screening Method Using a Carboxyfluorescein-Labeled Primer for Detecting Human Papillomavirus in Cervicovaginal Liquid-Based Cytology (子宮頸部液状化細胞診におけるヒトパピローマウイルス検出に対するカルボキシフルオレsein標識したプライマーを用いたPCRを基にしたスクリーニング法とHC II法との比較)
論文審査委員	教授 横田 憲治 教授 廣畑 聡 准教授 石川 哲也

学位論文内容の要旨

ヒトパピローマウイルスは、120以上の型が発見されているDNAウイルスであり、癌化との関連から高リスク型と低リスク型に分けられる。今までに、液状化検体細胞診 (Liquid-based cytology:LBC) を用いたPCRとハイブリッドキャプチャーII (Hybrid capture II:HC-II) による検出を比較した報告は少ない。本研究では、独自に蛍光標識したプライマーを用いたPCRが子宮頸部LBCに適用可能か否かの検証を試みた。

細胞診でASC-USと判定された59例を対象に、カルボキシフルオレsein標識したconsensus プライマーを用いてPCRを施行した。PCR とHC-IIとの一致性の評価は、0.8557 (カッパ統計量) で、「Almost perfect」と解釈した。また、高リスク型の陽性一致率は77.8%、陰性一致率は100%であった。

我々の新規のPCRは、子宮頸部LBCに適用可能であることが明らかになった。

論文審査結果の要旨

論文は、パピローマウイルスを検出するための細胞診検体からの新規カルボキシフルオレッシン標識PCR法とハイブリットキャプチャーII法を比較検討した。59症例を対象にした研究で、2つの方法の一致率は0.8557でほとんど一致と良好な結果を得た。新規カルボキシフルオレッシン標識PCR法が新規検査法として使えることを示した。

この結果はMolecular Pathology誌に掲載され、論文は、博士の学位に値すると考えられ、学位論文として適切であると認める。